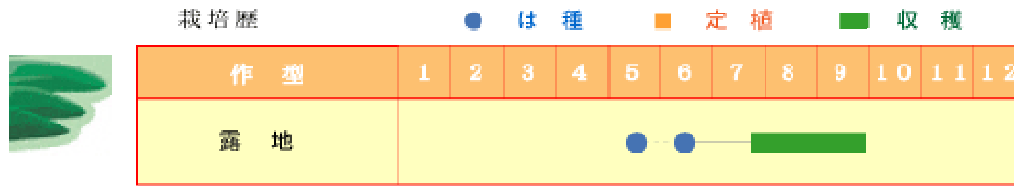


モロヘイヤ



栽培ポイント

- (1) 高温性の作物で、低温下では生育が著しく悪く、霜には非常に弱いです。
- (2) 長期どりをするには、肥切れさせぬよう追肥に注意します。
- (3) 病害虫は少ないが、コガネムシ、ハダニが主要害虫となります。
- (4) モロヘイヤの子実は強心作用や下痢等の問題があるので、食用としないよう注意しましょう。

品種・播種

■ は種期

5月中旬～6月中旬 花のついてしまった株は生育が遅く品質を害するので、無理な早まきはしないよう注意が必要です。

■ は種

は種前には十分かん水し、マルチをして地温を25℃目標に高めておきます。水稻の育苗箱に6～8cm間隔に条まきます。ペーパーポットやセルトレイを利用する場合は、種子が小さいので1穴2～3粒まきとします。

育苗

■ 床土の準備

は種床は10a当たり3～4平方メートル、移植床は10平方メートル程度用意します。

地床まきでもよいが、水稻の育苗箱や200～128穴程度のペーパーポットやセル成型苗用トレイを用いると育苗しやすくなります。は種用土は、窒素量で300mg／リットル程度の市販の園芸培土を用いると良いでしょう。

■ 発芽適温

発芽の適温は25～30℃程度の高温で、低温では発芽しません。

■ 花芽分化

育苗中の低気温・短日条件で花芽分化します。日長が12時間以下の場合、最低気温が20℃でも花芽分化します。日長が16時間の場合、最低気温15℃でも花芽は分化しません。

ほ場準備

■ 施肥

モロヘイヤは吸肥力が強く、水分要求量も多いので、堆肥を十分施用する。長期どりでは、緩効性肥料を用います。

■ 整地・マルチ張り

定植の5～10日前に135cm幅の黒マルチを張り、地温を高めておきます。

定植

■ 時期

5月中旬～6月中旬(露地栽培)

■ 定植苗の大きさ

本葉6～7枚 草丈15～20cmの時点とし、定植時期は5月中旬以降が好ましく、早い定植ではタフベル等のトンネル被覆が必要です。霜には弱く、一回の霜で凍害を受けるので無理な早植えは避けましょう。

■ 栽植方法

初期生育が遅いので、栽植本数を多くして、初期収量を確保しましょう。

畦幅150～180cm、株間20～30cmの1条植えにします。

■ 防風対策

モロヘイヤは強風により倒伏しやすいので、定植と同時に**スダックス**等を風除けとして、畑の周囲に1列には種しておくといいでしょう。

ソルガムの一品種。緑肥等に用いられる稲科の飼料作物

🌱 定植後の管理

■ 施肥

追肥は収穫する度毎に、NK化成等の速効性肥料を20kg/10a程度施します。

■ かん水

土壤水分は多めのpF1.8程度を好むため、梅雨明け後の高温時は畦間かん水等を積極的に行います。

🌱 主な病害虫と防除対策

病害虫は少ないが、ハダニ類、コガネムシ類等に注意します。

🌱 収穫

収穫は草丈が70～80cmになった頃、主枝を摘心します。以後、側枝の発生を促し、20cm位まで伸びた時に収穫して、これを繰り返します。